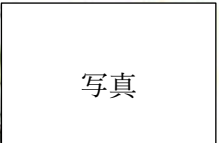

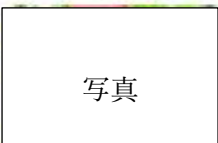





研究調査委員会では、このような作品例や授業実践事例を紹介しています。この事例の執筆者を1人決めて、報告してください。

※特別支援教育研究冊子 Ⅲ 特集(研究調査委員会)をご覧ください。

タイトル	生活単元学習（一日校外体験学習）乗り物に乗って出かけよう		
対象	特別支援学級児童	目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫体験や調理学習・環境学習などを通して、広く豊かな経験をする。</li> <li>公共のバス（列車）の中や施設内での決まりを守り、望ましい集団行動、公衆道徳を身に付ける。</li> </ul>
写真	 写真 バス停で時刻表を一人ずつ確認する。  黒板バーガー作り （お弁当を持っていかずに、作ったものを味わう。）  写真 野菜の収穫体験（今回は6月でにんじん、前は11月でさつまいも）  環境教育のエコキャンドル作り 29年度は、JR列車→コンビニでおやつ買い→COCCOはしむれー市立図書館→JR列車の日程で実施	配慮点	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットやタブレットで調べる。（体験紹介もある。）</li> <li>交通会社には、路線・時間・運賃などの確認を取る。</li> <li>目的地（今年度・昨年度はグリーンファーム）に対しては、2か月前までには事前に申込み、その後、日時・体験内容・所要時間・場所・金額・人数・持ち物など数回にわたり入念に連絡を取り合う。（目的地によっては、減免申請・団体割引などの確認）</li> <li>可能であれば事前に下見をする。</li> </ul>
支援・指導の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>一日校外体験学習前週的生活単元学習の時間に、ねらい・期日・目的地・参加者・日程・持って行く物など説明をし、質問を受け、体験学習に対して不安なく見通しをもって楽しみに臨むことができるようにした。（保護者にプリント配布）</li> <li>当日の朝、「安全に」「なかよく」「めいわくをかけない」ことを学習のめあてにし、トイレを済ませ、バス停まで歩く。</li> <li>特別支援学級2クラスの担任以外に、管理職1名（平成29・30年度）今年度は都合により特別支援教育支援員1名の計3名で引率した。</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に練習などしないが、一般のお客さんが乗っていらっしゃる公共のバスの中でも、乗車券を取ったり、降りるときにお金を入れたりみんなできた。また、決まりを守り望ましい行動をとることができた。（平成29年度の列車でも切符を買ったり、改札口で渡したりも同様である。）</li> <li>実際に収穫体験や調理学習・環境学習、施設の見学など広く豊かな経験をさせることができた。</li> <li>家の人に詳しく話すことができ、そのような体験をさせてくださる保護者が増えてきた。</li> <li>国語の時間に、一日校外体験学習のことを作文用紙1枚20分で書いたり、国語ノートに1～2ページ書いたり、みんなすらすら書くことができた。4年生は、グリーンファーム新聞を作りみんなに見てもらうことができ、次の新聞づくりへの意欲につながった。</li> </ul>		
指導者	学校名：_____小学校 職名：教諭 氏名：_____		

タイトル	タブレット端末を使用した手芸製品の作り方説明動画		
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的障害標準学級</li> <li>高等部1・2・3年</li> <li>作業・手芸「コースター製作」</li> </ul>	目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>作り方を教師が説明するときに使用する。また、生徒が製作を進める際、分かりにくい箇所を確認するときに再生して使用する。</li> </ul>
写真	 写真 	作り方・配慮点	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末の動画作成アプリを使用する。</li> <li>コースターを作っているところを動画で撮影し、アプリで編集する。後から、説明の声を入れることもできる。</li> </ul>
支援・指導の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入で、教師が作り方を説明するときには、大きめのディスプレイに映して説明を行う。タブレット端末を使用するので停止や巻き戻し、早送りの操作が容易で、着目してほしいところは一旦停止し、更に説明を加えることができたり、次の工程に進みたいときは、早く進めたりすることができる。</li> <li>生徒が作り方を自分で確認する場合は、タブレットを操作し、自分が確認したい工程を再生している。「繰り返し再生すること」「再生スピードをゆっくりすること」「見たい箇所を拡大すること」ができるので、理解できるまで確認している様子がある。</li> </ul>		
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>（成果）</li> <li>生徒が集中して説明を聞くことができていた。</li> <li>全工程を視覚的に説明することができるので、生徒が見通しをもって取り組むことができていた。</li> <li>分からないときは、自分で調べることで主体的に取り組む姿が見られた。</li> <li>縫い方やまち針の刺し方など難しいところも、分かるまで確認し、実際にできるようになると「できました」と嬉しそうに報告することがあった。自分で理解し、できたことが達成感につながったようである。</li> <li>「コースターの作り方」の他に「ペンケースの作り方」の説明動画も作成しており、製品製作に役立っている。</li> <li>（課題）</li> <li>映像やナレーションによっては、生徒が製作のポイントを把握するヒントとなり得ない場合もあるため、生徒の実態をより丁寧に把握する必要がある。</li> </ul>		
執筆者	学校名：_____ 学校 職名：教諭 氏名：_____		